

[Japanese Patent Provisional Publication No. **8-337274**
(December 24, 1996)]



Title: SEALING LID FOR INSTANTLY COOKABLE FOODS
HAVING STRUCTURE TO DISCHARGE HOT WATER

Japanese Patent Application No. 7-171506 filed June 23, 1995.

Inventor: Taiki YAMADA

Applicant: Nidaiki Kabushiki Kaisha

Filed Claims:

【Claim 1】 In a sealing lid that covers an opening of a container adopted to contain foods such as dried noodles which are eatable after steaming by hot water poured into the container and then wasting the hot water from the container, or uncooked noodles,

a sealing lid of a cup for instant foods, wherein said lid is made by adhering a plastic film to a reverse side of the lid wherein at least one end of the film is adhered so as to be separable from the lid, and picking an aperture at a separable portion of the plastic film, and

wherein said lid is used by sealing a periphery of a the container by the plastic film on the reverse side.

【Claim 2】 In a sealing lid that covers an opening of a container adopted to contain foods such as dried noodles which are eatable after steaming by hot water poured into the container and then such hot water is wasted from the container, or uncooked noodles,

a sealing lid of a cup for instant foods, wherein said lid is made by: adhering a nonwoven plastic to a reverse side of the lid wherein at least one end of the nonwoven plastic is adhered so as to be separable from the lid, and picking an aperture at a separable portion of the plastic film, and wherein said lid is used by sealing a periphery of a the container by the nonwoven plastic on the reverse side.

【Claim 3】 The sealing lid of the Claim 1 or 2, wherein said lid is made by projecting a tab at an end of the lid where the plastic film on the reverse side of the lid is separable, in addition with projecting a tab at an opposite side of the lid and an another end of the plastic film.

【Claim 4】 The sealing lid of the Claim 1 or 2, wherein said lid is a composition of a water-and-oil resistant paper whose inside is adhered by a plastic film, wherein a material of said plastic film is different from the plastic film and the nonwoven plastic on reverse side of the lid, and wherein at least one of the plastic film in the water-and-oil resistant paper, or the plastic film or the nonwoven plastic on the reverse side of the lid, is a film which is not treated with corona discharge treatment and is lightly adhered by an adhesive agent so as to be separable.

【Claim 5】 The sealing lid of the Claim 1 or 2, wherein said lid is a water-and-oil resistant paper whose inside is adhered by a aluminum foil plastic, and wherein the aluminum foil and the plastic film or the nonwoven plastic on the reverse side of the lid are lightly adhered by an adhesive agent so as to be separable.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-337274

(43)公開日 平成8年(1996)12月24日

(51)Int.Cl.⁶

B 6 5 D 81/34

識別記号

庁内整理番号

F I

B 6 5 D 81/34

技術表示箇所

J

審査請求 未請求 請求項の数5 F D (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平7-171506

(22)出願日 平成7年(1995)6月13日

(71)出願人 390003160

ニダイキ株式会社

愛知県小牧市外堀3丁目263番地の2

(72)発明者 山田 大機

愛知県小牧市外堀3丁目263番地の2 ニ

ダイキ株式会社内

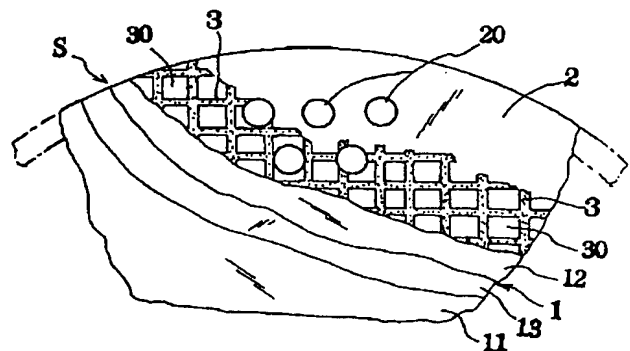
(74)代理人 弁理士 松島 秀俊

(54)【発明の名称】 インスタントカップ食品における排湯構造付きシール蓋

(57)【要約】

【目的】 蓋をシールすることで剥離可能に密閉でき、注いだ湯を簡単に排出できるインスタントカップ食品のシール蓋を提供する。

【構成】 耐水耐油紙11とポリエステルフィルム13とをポリエチレン12のサンドラミネーションを介して接着した蓋本体1と、一端に穿孔20を透設したポリエチレンフィルム2とから成り、格子柄部に接着剤3を該ポリエチレン12に塗布してポリエステルフィルム13を部分接着して、軽接着による剥離可能に蓋本体1と一体のシール蓋Sとし、蓋本体1の一端部に指係止部10を突設し、その反対側のシール蓋Sに指係止部Saを突設する。シール蓋Sは裏面のポリエチレンフィルム2が容器4の開口周縁40に軽くヒートシールされて剥離可能に被着される。蓋本体1をポリエチレンフィルム2から少し剥離すると該フィルム2が開口周縁40に残存接着して穿孔20が露呈し湯を排出できるのである。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 注湯でふやかした後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納した容器の開口部を被着するものにおいて、蓋本体の裏面にプラスチックフィルムを少なくともその一端部を剥離可能に接着すると共に、該剥離部位のプラスチックフィルムに通孔を透設して成り、該裏面のプラスチックフィルムを容器の開口縁に剥離可能に接着して用いることを特徴とするインスタントカップ食品における排湯構造付きシール蓋。

【請求項 2】 注湯でふやかした後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納した容器の開口部を被着するものにおいて、蓋本体の裏面に通水性の良好なプラスチック不織布を少なくともその一端部を剥離可能に接着して成り、該裏面のプラスチック不織布を容器の開口縁に剥離可能に接着して用いることを特徴とするインスタントカップ食品における排湯構造付きシール蓋。

【請求項 3】 蓋本体における裏面のプラスチックフィルムと剥離する一端部に指係止部を突設すると共に、該指係止部の反対側における蓋本体及び裏面のプラスチックフィルム他端部に指係止部を突設した請求項 1 又は請求項 2 のシール蓋。

【請求項 4】 耐水耐油紙の内面に、裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布と異なる材質のプラスチックフィルムを接着した複合材の蓋本体と成し、該蓋本体の内面のプラスチックフィルム或いは裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の少なくとも一方をコロナ放電処理の未処理フィルムとして接着剤で剥離可能に軽接着した請求項 1 又は請求項 2 のシール蓋。

【請求項 5】 耐水耐油紙の内面にアルミ箔を接着した蓋本体と成し、該アルミ箔と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布とを接着剤で剥離可能に軽接着した請求項 1 又は請求項 2 のシール蓋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、注湯でふやかし又は熱湯処理した後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納したインスタントカップ容器の排湯構造付きシール蓋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の注湯排湯構造のインスタントカップ食品の容器は、焼きそば容器のように、プラスチック蓋を外して注湯し、再び蓋をして乾燥麺をふやかし、ついで蓋に欠設された切欠きを起こして通孔を確保した後、容器を傾けて湯を通孔から安全に排出して湯切りをしていたのである。そして、蓋を外して食していたのである。しかしながら、蓋が着脱自在のため、また蓋に通孔形成のため切欠きが欠設してあることから安全上包装を充分にする必要があったのである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 そこで本発明は、ラーメンやうどんのような注湯インスタント食品容器のように蓋をシールすることで剥離可能に密閉できると共に、排湯構造を施したインスタント食品のシール蓋を提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 このため本発明は、注湯でふやかした後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納した容器の開口部を被着するものにおいて、蓋本体の裏面にプラスチックフィルムを少なくともその一端部を剥離可能に接着すると共に、該剥離部位のプラスチックフィルムに通孔を透設して成り、該裏面のプラスチックフィルムを容器の開口縁に剥離可能に接着して用いる構成の排湯構造付きシール蓋である。また、裏面のプラスチックフィルムを通水性の良好なプラスチック不織布としてもよい。なお、蓋本体における裏面のプラスチックフィルムと剥離する一端部に指係止部を突設すると共に、該指係止部の反対側における蓋本体及び裏面のプラスチックフィルム他端部に指係止部を突設してもよい。また、耐水耐油紙の内面に、裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布と異なる材質のプラスチックフィルムを接着した複合材の蓋本体と成し、該蓋本体の内面のプラスチックフィルム或いは裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の少なくとも一方をコロナ放電処理の未処理フィルムとして相互に接着剤で剥離可能に軽接着してもよい。さらに、耐水耐油紙の内面にアルミ箔を接着した蓋本体と成し、該アルミ箔と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布とを接着剤で剥離可能に軽接着してもよい。

【0005】

【作用】 容器の開口縁に剥離可能に軽接着した複合形成のシール蓋自体を半分位剥離して、容器内に湯を注いだ後、再びシール蓋を容器側に押えて容器を密閉することで収容した乾燥麺等をふやかし、所定時間経過後、剥離した反対側部において容器の開口縁に接着した裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布をそのまま接着残存させた状態で蓋本体だけを少し剥離する。これにより、裏面がプラスチックフィルムの場合は通孔が露呈し、またプラスチック不織布の場合は不織布部が露呈するのであり、このまま容器を傾けることで湯が通孔又は不織布の連続気孔から排出され、その後、シール蓋を容器の開口縁から全部剥離して食すればよい。

【0006】 この際、蓋本体及び裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の端部に指係止部を突設すれば、その引き上げで簡単にシール蓋が容器から簡単に剥離でき、また蓋本体の端部に指係止部を突設すれば、その引上げで簡単に蓋本体が裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布から剥離できるのである。

【0007】

【実施例】以下、本発明の詳細を図示実施例について説明する。図1及び図2に示す本例におけるシール蓋Sは、蓋本体1の裏面にポリエチレンフィルム2を軽接着したものであり、蓋本体1は耐水耐油紙11とポリエステルフィルム13とをポリエチレン12のサンドラミネーションを介して接着したものであり、耐水耐油紙11は80g/m²目付のものであり、ポリエチレン12の厚みは15μm、ポリエステルフィルム13の厚みは12μmであって円形に形成してある。

【0008】ポリエチレンフィルム2の厚みは50μmであり、一端に直径2mmの通孔20が近接して多数(本例では)五箇所透設してある。そして、図1のように格子柄部に接着剤3を印刷塗布してポリエステルフィルム13を部分接着することで蓋本体1と一体としている。即ち、格子柄形状に接着剤3が塗布され、その空間部の無着部30の面積が多いことからポリエチレンフィルム2とポリエステルフィルム13との接着が軽い接着状態となって簡単に剥離可能となるのである。

【0009】なお、シール蓋Sは裏面のポリエチレンフィルム2がプラスチック容器4の開口周縁部40にヒートシールされて被着されるのであるが、プラスチック容器4を裏面のポリエチレンフィルム2と異なる材質のプラスチック容器、例えばポリプロピレン製とすることにより、完全なヒートシールとしないことから剥離可能に軽接着されるのである。これは通常、イージーピールと称されて従来から行われている。

【0010】本例では、このヒートシールの際に、蓋本体1と裏面のプラスチックフィルム2とが溶着しないように別材質のポリエステルフィルム13とポリエチレンフィルム2としたものであり、さらにポリエステルフィルム13を、コロナ放電処理が未処理の滑面フィルムとすることで接着剤3との接着強度を弱くして一層の軽接着としている。即ち、容器4の開口周縁部40からのポリエチレンフィルム2の剥離強度に比べ、ポリエチレンフィルム2からのポリエステルフィルム13の剥離強度を弱くしている。

【0011】さらに、蓋本体1における裏面のポリエチレンフィルム2と剥離する一端部に指係止部10を突設すると共に、該指係止部10の反対側における蓋本体1及び裏面2のポリエチレンフィルム2の接着他端部に指係止部Saを突設している。

【0012】このように構成した本例は、図3及び図4のように、裏面のポリエチレンフィルム2をプラスチック容器4の開口周縁部40にヒートシール被着して使用されるもので、図5の仮想線及び図6のように、指係止部Saを持ち容器4の開口周縁部40からシール蓋Sを引き離して半分位剥離し、容器4内に湯を注いだ後、再びシール蓋Sを容器4側に押えて容器4を密閉することで収容した乾燥麺等をふやかす。

【0013】所定の2〜3分経過後、図7及び図5のよ

うに、蓋本体1の指係止部10を持ち蓋本体1を裏面のポリエチレンフィルム2から少し剥離する。この状態では裏面のポリエチレンフィルム2は開口周縁40にそのまま残存接着した状態となっており、通孔20が露呈するのである。そして、このまま容器4を傾けることで湯が通孔20から排出され、麺等は残存したポリエチレンフィルム2によって排出を阻止されるのである。その後、指係止部Saを持ってシール蓋Sを容器4の開口周縁40から全部剥離して食すればよい。

【0014】このように本例によると、蓋部をシールしたカップ食品にできることから容器内への異物の侵入を防止できて安全であり、しかもシール蓋Sを剥離して湯を注いだ後、蓋本体1を剥離することで露呈した通孔20から排湯できるものであって扱い易いのである。

【0015】本例は前記の構成としたが、本発明においてはこれに限定されない。例えば、蓋本体の構成は問わず、蓋本体の外面に耐水耐油紙を用いた場合、該耐水耐油紙の表面にプラスチックフィルムを積層コートしてもよい。また、図8のように、耐水耐油紙11の内面にアルミ箔5を接着剤を介してドライラミネーションし、或いは図9のように厚手のアルミシート6だけでもよい。但し、電子レンジによる使用の場合はアルミ箔の使用を避ける。さらに、シール蓋の裏面のプラスチックフィルムの材質も限定されないが、蓋本体の内面のプラスチックフィルム及び容器の開口縁の材質と異なるプラスチック材が軽接着の点から望ましい。

【0016】また、シール蓋の裏面のプラスチック材としてはプラスチック製不織布でもよく、この場合のプラスチック製不織布の材質も、蓋本体の内面のプラスチックフィルム及び容器の開口縁の材質と異なるプラスチック材が軽接着の点から望ましい。即ち、図10のように、耐水耐油紙11の内面にサンドラミネーションによってポリエステルフィルム13を接着し、接着剤3による部分接着によって裏面にポリプロピレン製不織布7を剥離可能に接着してもよい。これによりポリエチレン容器の開口縁にヒートシールすることでポリプロピレン製不織布7が剥離可能に軽接着されるのである。

【0017】なお、シール蓋の裏面のプラスチック材をフィルムとする場合は、その剥離部に排湯用の通孔を透設する必要があるが、該通孔の大きさや数は適宜である。また、シール蓋の裏面のプラスチック材を不織布とする場合は、その剥離部に排湯用の通孔を透設する必要がなく、不織布内の連続気孔によって排湯が確保されるのである。

【0018】さらに、蓋本体と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布を少なくともその一端部を剥離可能に軽接着する手段は問わず、接着強度の弱い接着剤を用いて全面接着することでもよい。この場合、蓋本体の内面のプラスチックフィルム或いは裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の両方或いはい

いずれか一方をコロナ放電処理の未処理フィルムとして滑面フィルムとすれば一層軽接着できるのである。なお、裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布をコロナ放電処理の未処理フィルムとすれば接着剤が蓋本体側に接着して剥離されるため衛生上も問題がない。

【0019】また、シール蓋から蓋本体を剥離し易いように指係止部を形成する場合は、蓋本体の表面に粘着テープ等の小片を貼着して指係止部としてもよく、それを引き上げることで裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布を容器に残存させて蓋本体を剥離できるのである。なお、被着するカップ容器の収容食品は問わず、給湯排湯して食するものであればよい。

【0020】

【発明の効果】本発明の請求項1によると、蓋部をシールしたカップ食品にできることから容器内への異物の侵入を防止できて安全であり、しかもシール蓋を剥離して湯を注いだ後、蓋本体を剥離することで残存して被覆状態となっているプラスチックフィルムに露呈された通孔から排湯でき扱い易いのである。

【0021】請求項2では、蓋部をシールしたカップ食品にできることから容器内への異物の侵入を防止できて安全であり、しかもシール蓋を剥離して湯を注いだ後、蓋本体を剥離することで残存して被覆状態となっているプラスチック不織布を通して排湯でき扱い易いのである。

【0021】また、請求項3では、シール蓋が容器から簡単に剥離できると共に、蓋本体が裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布を残して簡単に剥離できるのである。請求項4では、蓋本体と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布とを軽接着できて蓋本体の剥離が極めて容易となるのである。請求項5では、耐水耐油紙の内面にアルミ箔を接着することから強

度に促れる蓋本体となるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の要部切欠拡大平面図である。

【図2】その拡大縦断面図である。

【図3】容器に被着した状態の斜視図である。

【図4】その要部の拡大縦断面図である。

【図5】蓋本体を剥離した状態の斜視図である。

【図6】シール蓋を剥離した状態の要部拡大縦断面図である。

【図7】蓋本体を剥離した状態の要部拡大縦断面図である。

【図8】蓋本体の別例の要部の拡大縦断面図である。

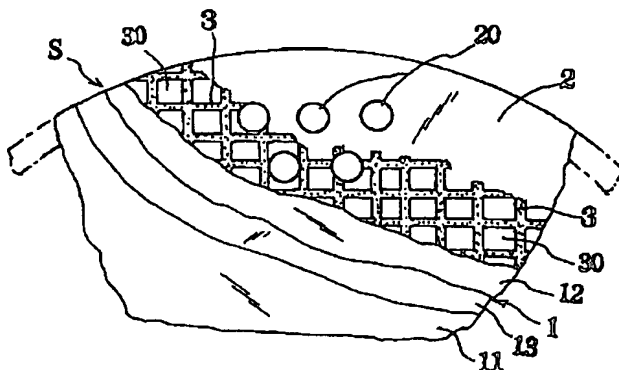
【図9】さらに蓋本体の別例の要部の拡大縦断面図である。

【図10】不織布を裏面のプラスチック材とした別例の要部拡大縦断面図である。

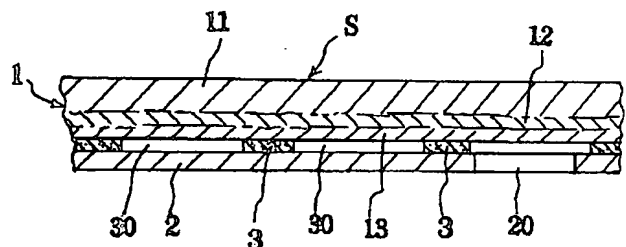
【符号の説明】

- S シール蓋
- 1 蓋本体
- 11 耐水耐油紙
- 12 ポリエチレン
- 13 ポリエステルフィルム
- 2 ポリエチレンフィルム
- 20 通孔
- 3 接着剤
- 30 無着部
- 4 容器4
- 40 開口周縁部
- 5 アルミ箔
- 6 アルミシート
- 7 プラスチック製不織布

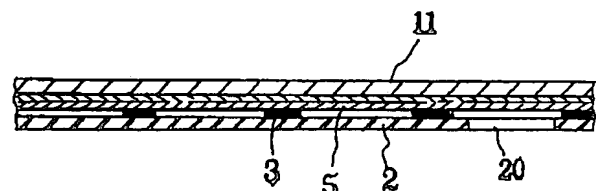
【図1】



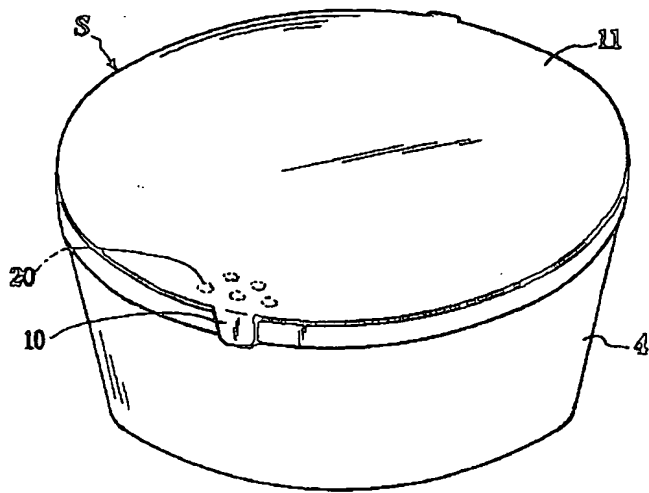
【図2】



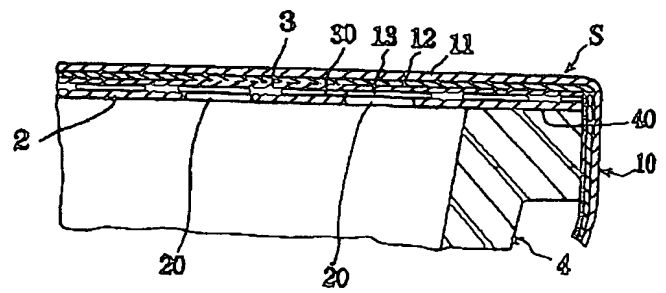
【図8】



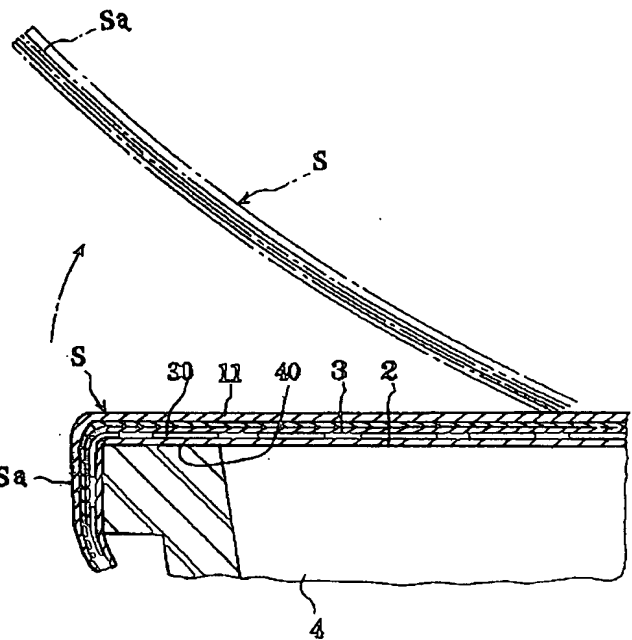
【図 3】



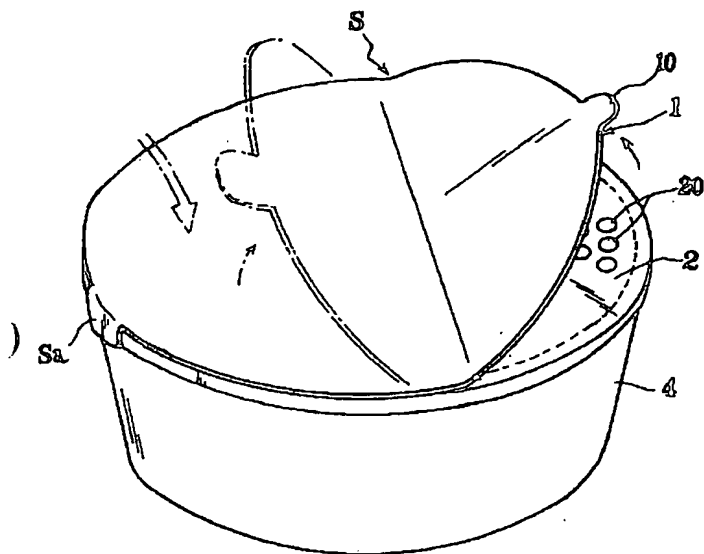
【図 4】



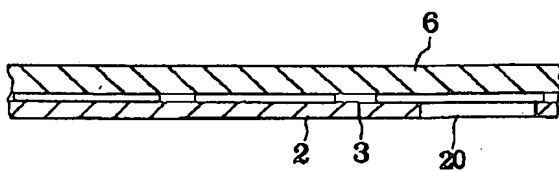
【図 6】



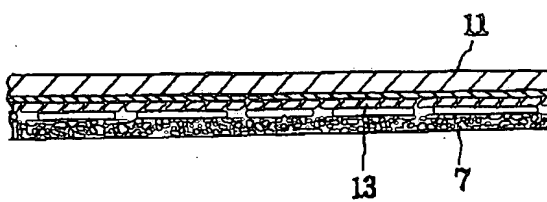
【図 5】



【図 9】



【図 10】



【図7】

